

在スロバキア日本国大使館

政治・経済月報（2013年12月）

目次

内政

- ◆法人税制の変更 2
- ◆フィツォ政権の政策目標 2
- ◆2014年予算案の国会承認 3
- ◆SDKUから国会議員3名が離党 4
- ◆フィツォ首相が大統領選挙への立候補を表明 5
- ◆大統領選挙の実施日決定 6

外交

- ◆ウクライナへの天然ガス逆移送計画に関するフィツォ首相発言 6
- ◆首相・外相のイラン訪問 7
- ◆アフガニスタンでスロバキア人兵士2名が死亡 7

社会

- ◆スロバキアのカトリック司教会議、性的マイノリティの権利尊重を批判 7
- ◆スロバキアの高齢化問題 8

経済

- ◆国内企業、年末賞与の支給を控える傾向 8
- ◆工業部門の第3四半期設備投資、昨年を下回る 8
- ◆高速道路建設による雇用創出 9
- ◆国立銀行による経済予測 9
- ◆スロバキア国債の利回り、上昇へ 10
- ◆主要経済指標：2013年11月 11

内政

◆法人税制の変更

3日、スロバキア国民評議会（国会）において法人税制の改正が可決された。改正の主なポイントは以下のとおり。

●法人税率

2014年より法人税率を現行の23%から22%に変更。

●「タックス・ライセンス」の導入

(1) 売上高が50万ユーロ未満で付加価値税納税義務を免除されている企業は年480ユーロ、付加価値税納税企業は年960ユーロ、売上高が50万ユーロ以上の企業は年2880ユーロのタックス・ライセンス料を納める。当該年のタックス・ライセンス料は翌年春に支払う（したがって、タックス・ライセンス料の支払いは2015年春からスタート）。

(2) 新規設立企業については設立年分のタックス・ライセンス料は免除。身体障害者を雇用している企業は半額免除。

(3) タックス・ライセンス料として支払った分は3年以内であれば当該企業の法人税から控除可能（したがって、タックス・ライセンス料以上の法人税を納める企業については、国に納める金額は実質的に変更なく、赤字あるいは低収益のため法人税を免除されてきた企業への影響は大）。

●損失分控除期間の変更

企業の損失分を課税ベースから控除できる期間を現行の7年から4年に変更。また、年間控除額を最大で総損失額の4分の1に変更。

◆フィツォ政権の政策目標

7日、フィツォ首相はニトラで開催された与党 Smer-SD の代表者会議で演説し、来年以降の政策目標について述べた。

●失業率の引き下げ

フィツォ首相は、スロバキアの失業率を、現在の13.7%から、2016年4月までにユーロ圏の平均である12%近くにまで引き下げると述べた。この目標を達成するには、2年間で約4万2000名、1日あたり約50名の新規雇用を創出する必要がある。特に実現が期待されるのは、高速道路建設等のインフラ整備事業における、低水準労働力の雇用拡大である。

●賃金の上昇

フィツォ首相によれば、来年はインフレ率がかなり低下するとみられ、それゆえ実質賃金上昇が期待される。政府は、公的部門及び民間部門の双方において平均賃金の上昇を後押し、また現在の337.7ユーロに設定されている最低賃金についても、来年は352ユーロまで引き上げる、としている。

●租税回避対策

フィツォ首相は、有名企業を含む約60%の国内企業が税を支払っていない現状に触れつつ、政府として引き続き租税回避対策に取り組んでいく旨述べた。首相はその方策として、今年導入された「レシートくじ」（付加価値税回避対策）及び2015年から導入予定の「タックス・ライセンス」（法人税回避対策）に言及した。フィツォ首相によれば、今年の税収は昨年を1億5000万ユーロ上回ったが、来年はさらに昨年来を3億7000万ユーロ上回る見込であるという。首相はこれに関連し、引き続き財政赤字抑制に取り組んでいく決意を述べた上で、2013年の目標であるGDP比3%以下への抑制が達成された場合には、2015年1月1日より付加価値税率を現行の20%から19%に引き下げる方針を表明した。

◆2014年予算案の国会承認

12日、スロバキア国会は2014年予算案を承認した。これに関する12日付財務省プレスリリース及び各紙報道の概要は以下のとおり。

●財務省プレスリリース

(1) 来年の政府予算における歳入は141億800万ユーロ、これに対し歳出は173億9200万ユーロとなる見込み。

(2) 財政規律強化の成果は、GDP比1.6%に達する見込である。ただし、教育、社会サービス、インフラ整備、経済成長支援の分野については、優先的な予算配分が行われる。

(3) 税徴収システムの改善に取り組んだ結果、本年の税収は、付加価値税だけで2億2500万ユーロ増加した。その結果、医療分野で5200万ユーロ、社会サービスで1000万ユーロ、教育分野で3000万ユーロ、道路インフラ整備分野で9200万ユーロの財源上積みが可能となった。

(4) 2014年には、付加価値税徴収システムの向上により、さらに2億5000万ユーロの収入増加が期待される。予算案では、この増収分は支出計画に含まれず、準備金扱いとなる。

(5) 2014年の公的予算（政府予算及び、自治体・社会保険・公共施設等の予算

の総合)においては、収入が260億4900万ユーロ、支出が280億4900万ユーロで、財政赤字はGDP比2.64%にあたる20億ユーロとなる見込みである。

●各紙報道

(1) 13日付「スメ」

ア. 政府は、1月から法人税を23%から22%に引き下げる一方で、特に中小企業にとって負担となるタックス・ライセンスを導入する。これにより、新たにより多くの金を、企業から引き出す目算である。

イ. 2014年予算案によれば、公的予算からの支出は280億ユーロに上るとされるが、支出は物価上昇の分だけ増大する。公務員の給与は月16ユーロ、教員については42ユーロ増額される。

ウ. 政府は、自身が株式を所有する企業の臨時配当や電信ライセンスの売却等、予算に対する長期的な貢献を見込めない、その場限りの手段に依存している。すなわち政府は、実際の赤字額が示す以上に、将来を犠牲にした財政運営を進めようとしている。

(2) 13日付「経済新聞」

ア. 来年の企業法人税からの収入は、今年より1億4000万ユーロ多い19億1300万ユーロとなる見込み。経済成長とタックス・ライセンス導入が税収増に寄与する。

イ. 財政赤字はGDP比2.64%となり、今年より約0.2ポイント改善する見込み。

一方で、景気変動の影響を除外した構造赤字は、今年より0.1%上昇する見込み。

ウ. 来年の公的債務は、GDP比56.8%に達する見込み。ただし、公的債務の範囲を規定する新たな欧州基準であるESA2010の適用、名目GDPの変化、公立病院の債務増加等、公的債務の膨張に結びつくリスク要因が存在。

エ. 新予算により恩恵を受けるのは、給与が増額される教員と公務員。一方、収益の有無に関わらず、例外なくタックス・ライセンス徴収の対象となる中小企業の負担は増大。

オ. 支出のうち大きな割合を占める分野は、社会保障(37.3%)、一般公共サービス(16.86%)、医療(14.34%)、教育(9.93%)、経済成長支援(8.67%)。

◆SDKUから国会議員3名が離党 (13日付各紙)

12日、中道右派野党・スロバキア民主キリスト教連合(SDKU)所属の国会議員3名(ジトニャンスカー元法相、ベブラヴィー氏、ヴァーシャーリョヴァー氏)が、同党からの離党を表明した。ジトニャンスカー氏は離党の理由の一つとして、党の政策

内容の形骸化を挙げた。3議員は、国会においては当面は無所属として活動し、新党の結成は検討していないという。3議員の離党によって、SDKU 所属の国会議員数は、11名から院内会派形成に最低限必要な8名にまで減る結果となった。

◆フィツォ首相が大統領選挙への立候補を表明（19日付各紙）

18日、フィツォ首相は、2014年春に実施予定の大統領選挙への立候補を公式に表明した。

フィツォ首相は、政府関係者、与党 Smer-SD 所属国会議員、各国大使等を招待して自ら開催した国政報告会（2013年の評価及び2014年の展望）において、2014年春に実施が予定されている大統領選挙に、Smer-SD から立候補することを公式表明した。フィツォ首相の立候補表明によって、大統領選挙への立候補表明者は計15名となった。選挙の実施日は未だ確定しておらず、本年末までに国会議長が発表する予定である。なおフィツォ首相は、大統領選挙までは首相のポストにとどまり、選挙に勝利した際に首相を退任する見通しである。Smer-SD 内では、首相と同党党首は同一人物であるべきとの意見が支配的であり、フィツォ首相の後継者としてはパシュカ現国会議長が有力との情報がある。

専門家の見解によれば、フィツォ首相の立候補表明によって、大統領選挙に勝利する可能性のある候補者はひとり出揃った。フィツォ首相は、第一回投票における明確な最有力候補である。したがって現在重要なのは、（第一回投票においていずれの候補も過半数の票を得られなかった場合に、上位2名の間で行われる）決選投票に進出し、フィツォ首相に対抗するのは誰か、という問題である。世論調査会社 Focus のスロシアリク氏によれば、可能性があるのはフルショウスキー氏（KDH 所属、Most-Hid および SDKU が支持）、キスカ氏（無所属）、クニャジュコ氏（無所属）、プロハーツカ氏（無所属）のいずれかであるという。第一回投票で3位以下になった候補が、決選投票において自身の支持者をフィツォ氏の対立候補に振り向けることが出来れば、フィツォ氏が敗れる可能性も出てくるという。一方、別の世論調査会社 MVK のハウリーク氏は、決選投票においてもフィツォ氏が勝利すると見ている。同氏は、フィツォ氏の対立候補はどれも似たり寄ったりで、有権者は決選投票に赴く動機を失うだろう、と推測する。

◆大統領選挙の実施日決定

19日、パシュカ・スロバキア国民議会議長は、2014年春に実施予定の大統領選挙の日程を発表した。それによれば、第一回投票は、2014年3月15日に実施される。第一回投票においていずれの候補の得票も投票総数の過半数に達しなかった場合には、上位2名による決選投票が、同年3月29日に実施される。現職のガシュパロヴィチ大統領の任期満了期日は2014年6月15日となる。同日、新大統領が就任する。大統領選挙候補者は、2014年1月9日までに立候補届を提出しなければならない。立候補には、国会議員15名または一般市民1万5000名の署名が必要である。選挙キャンペーンの開始日は第一回投票の15日前、すなわち2014年2月28日である。

外交

◆ウクライナへの天然ガス逆移送計画に関するフィツォ首相発言

3日、フィツォ首相は当地紙「経済新聞」主催のフォーラムにおいて、ウクライナへの天然ガス逆移送計画に関して発言した。フィツォ首相は、EUが現在検討している西から東へのガス逆移送計画（ウクライナに安価な天然ガスを提供し、同国のロシアに対するエネルギー依存を軽減するために、西欧からスロバキアを通じてガスを逆移送する）について触れ、ウクライナがより安価な天然ガス供給に関する合意をロシアから得たことで、右計画を実行に移す必要性は無くなったとの認識を示した。フィツォ首相によれば、ロシア産天然ガスのウクライナを通じた供給は、現在安定的に確保されており、したがって同国へのスロバキアを通じたガス逆移送について議論する必要性は無くなった。

メディアを介した情報によれば、スロバキアからウクライナへのガス逆移送計画は、来年秋の実現に向けて、全ての準備が整えられていた。スロバキアのガス移送事業者であるEustream社の広報担当者によれば、逆移送の実現に必要なのは、最早ウクライナ側の合意のみであるが、現在のところその目途が立っていない。一方、スロバキアのガス供給企業であるSPPは、スロバキア向けガス価格の値下げを巡って現在ロシアのガスピロム社と交渉中である。SPPの広報担当者によれば、両者は未だ合意には達していないが、協議は順調に進行しており、良い結果が期待できるという。

◆首相・外相のイラン訪問

12日、フィツォ首相とライチャーク外相はイラン・テヘランを訪問、ジャハーンギーリー第一副大統領と会談を行い、5月以来スパイ容疑でイラン当局に拘束されていたスロバキア人2名の解放及び、二国間協力の可能性を巡って協議した。

イラン当局は5月、国内軍事施設の空撮を行ったとして8名のスロバキア人パラグライダー愛好家を拘束した。うち6名は9月に解放されたが、残り2名の処遇が両国間の外交課題となっていた。12日の会談の後、2名のスロバキア人は200日間に及ぶ身柄拘束から解放され、同日深夜政府専用機で首相・外相と共に帰国した。ライチャーク外相は会談において、2014年にテヘランを公式訪問する旨確約した。

◆アフガニスタンでスロバキア人兵士2名が死亡

27日、アフガニスタンのカブール近郊に展開するNATO部隊の車両に対し、タリバン兵士による自爆攻撃がなされ、スロバキア人兵士2名が死亡した。死亡したのは、特殊部隊に属する34歳と39歳の2名のスロバキア人兵士で、1ヶ月前に現地に赴任下ばかりであった。2名の遺体は、29日に政府専用機でスロバキアに運ばれた。スロバキアは、アフガニスタンにおける国際治安支援部隊（ISAF）の活動に232名の兵士を派遣している。当地におけるスロバキア人兵士の殉職は、7月のテロ攻撃による1名に引き続き、今回で計3名となった。ライチャーク外相は、スロバキア人兵士へのテロ攻撃を厳しく非難する一方で、スロバキア部隊は2014年末に予定されているISAFの任務終了まで、アフガニスタン駐留を継続する旨明言した。

社会

◆スロバキアのカトリック司教会議、性的マイノリティの権利尊重を批判

(2日付「スメ」)

ローマ・カトリックのズヴォレンスキー・ブラチスラバ大司教を議長とするスロバキア司教会議は、1日に公表された司教教書の中で、同性愛者等の性的マイノリティの権利尊重を「ソドムのイデオロギー」と呼び、それを支持するメディアや政治家を「死の文化」を受け入れているとして厳しく非難した。3月に選出されたローマ教皇フランシスコ1世は、多様な家族形態を擁護するリベラルな潮流に対して比較的寛容な態度を示しているが、スロバキアの司教会議はこれに反し、伝統的な家族道徳を尊重する保守的な姿勢を堅持することが改めて示された形となった。司教教書の攻撃的

なトーンに対しては、リフト社会・家族問題相が異議を唱えたほか、一部のカトリック聖職者の間にも、驚きを禁じ得ないとの声が上がっている。

◆スロバキアの高齢化問題（6日付「スメ」）

スロバキアの65歳以上の高齢者人口は、1950年には国民全体のわずか6.7%であったが、2050年には31.6%に達すると予想され、今後高齢化問題が深刻化すると考えられている。最近、公共問題研究所（IV0）が行った中高年の社会生活に関する調査により、スロバキアの高齢者を取り巻く以下のような問題が明らかとなった。

- ・スロバキア国民が健康を維持できる上限年齢の平均は、男性が52.4歳、女性が52.1歳である。ちなみに、スウェーデンでは平均71.7歳。これには、生活スタイルが大きく影響していると考えられる。
- ・55歳以上の男性の23%、女性の31%が肥満に苦しんでいる。
- ・45歳以上の男女の最も多くが、仕事以外の時間を、家庭でのテレビ鑑賞等に費やしている。
- ・45歳から64歳までの男女の68%が、自分の権利について十分に知らないと認めている。
- ・45歳から64歳までの男女のうち、何の健康問題も抱えていないのはわずか29%である。
- ・年金生活者の46%が金銭的な問題を抱えており、16%が孤独を感じている。

経済

◆国内企業、年末賞与の支給を控える傾向（2日付経済新聞）

市場調査機関GfKによれば、国内企業の約6割が、2013年の年末賞与または特別手当の支給を考えていないことが明らかとなった。専門家によれば、その理由は明白で、受注の減少による収益低下である。この傾向は、特に建設、交通、観光業に顕著である。賞与を支給すると明確に回答した企業は23.5%にとどまり、そのうち約4割が月給額以上を支給するとした。ただし2014年には、欧州経済の回復により状況が改善するとする向きもある。

◆工業部門の第3四半期設備投資、昨年を下回る（5日付経済新聞）

スロバキア統計局が発表した2013年第3四半期の統計によれば、工業部門の全

業種における設備投資の総額は、昨年同期比でマイナス11.5%であった。ある経済アナリストは、設備投資が昨年を下回った理由について、経済危機の終息にもかかわらず実質的な経済再生および需要増加はなおも不十分で、企業が慎重になっており、本格的な景気回復が実感できるまで設備投資を先延ばしにしているため、と説明する。一方、工業企業連盟の関係者は、大多数の工業企業は既に数年前に設備投資を済ませており、改めて投資を行う必要が無かったと説明している。しかし実際には、経済危機がなおも終わっていないのは明らかである。それを端的に示すのが、西欧からの需要の低調さである。欧州経済の回復テンポは一貫して緩やかであり、夏以降、ユーロ圏諸国で経済成長率が1%に達した国は出ていない。

◆高速道路建設による雇用創出（6日付「プラウダ」）

交通省の見積もりによれば、2013年末に着手される新高速道路建設事業の請負企業は、2014年に3000名の雇用を創出する見込みである。さらに、その下請け企業による雇用が加わる。高速道路建設の主な財源は、EU基金である。欧州委員会はスロバキアに対し、高速道路建設や他の分野での支援が失業率を低下させ、それによって極右思想への傾倒が抑えられるとのメッセージを発している。スロバキアは、2014年から新たに、これまでより20億ユーロ多い60億ユーロのEU基金を使用することが可能になる。シェフチョヴィチ欧州委員会副委員長によれば、これによりスロバキアの労働市場改善のための条件が提供されるという。

◆国立銀行による経済予測

10日、スロバキア国立銀行（NBS）は今後の経済予測を発表した。その概要は以下のとおり。

●GDP 成長率

2013年－0.9%

2014年－2.2%

2015年－3.1%

※今後2年間のGDP成長率は、輸出の拡大に加え、政府の緊縮政策緩和に伴う国内需要の伸びに支えられて、低調であった過去2年に比して大きく伸びる見込み。

●失業率

2013年－14.2%

2014年－13.7%

※GDP 成長率の急速な伸びは失業率の低下をもたらすが、しかしそのペースは緩慢なものとなる見込み。

●インフレ率

2013年－1.5%

2014年－1.3%

※エネルギー価格の低下、食料品価格の固定化により、来年のインフレ率は今年に比してやや低下する見込み。

●賃金上昇率

2013年－名目2.6%/実質1.1%

2014年－名目3.2%/実質2%

※来年の賃金上昇には、主に公務員給与の増額が寄与する。

◆スロバキア国債の利回り、上昇へ（17日付「経済新聞」）

中東欧諸国の経済予測を手がける Erste Group の分析によれば、2014年のスロバキア国債（10年物）利回りは2013年より約0.4%上昇し、2.93%になるとされる。また、2014年の政府借入金は、2013年より3分の1少ない約61億ユーロ（GDP比8.1%）となる見込みである。

スロバキアを含む中欧国債の今後の見通しは、米FRBの動向及び欧州経済の再生に左右される。スロバキア貯蓄銀行のバラージュ研究員によれば、米FRBによる量的緩和政策の段階的縮小により市場における過剰流動性が低下することで、金利が緩やかに上昇するとともに国債への投資が制限され、国債価格の低下および利回りの上昇に結びつくという。さらに、欧州経済の成長も、逆説的にスロバキア国債の利回り上昇を促すと考えられる。今後、欧州経済回復への期待が高まることで、南欧諸国の財政状況に対する市場の懸念が和らぎ、投資マネーがより利回りの良い南欧国債の購入に向かうことが予想される。その結果、相対的にスロバキア国債購入に対する関心が低くなり、価格低下と利回り上昇を引き起こす。

こうして国債利回りの上昇が見込まれる一方、スロバキアの政府債務残高は、ユーロ圏で5番目に低い対GDP比56%にとどまっている。ただし、その増加率は、既に投資家の信用を失ったギリシャ、スペイン、キプロスといった南欧諸国と同様の、急速な伸びを示している。

スロバキア国債の所有者については、過去と比べて外国投資家の比率が高まってきている。2013年時点では、国債所有者の36.5%を外国投資家が占めている（国

内銀行 39.1%、国内企業 24.3%)。前出のバラージュ研究員は、欧州の投資家が国債購入に消極的になったとしても、例えば日本の投資家が意欲を示すこともありうる、と説明する。

◆主要経済指標：2013年10月

※出典：Štatistický úrad SR 及び EUrostat。為替レートについては Interbank Rate を使用 (<http://www.oanda.com/>)

GDP 成長率 (対前年同期比)

四半期	
1	0.6
2	0.3
3	0.2

消費者物価指数 (対前年同月比)

月	総合	食料品価格	エネルギー価格	運輸・交通価格
1	2.4	5.9	0.2	0.8
2	2.2	5.6	0.1	0
3	1.9	3.5	1.0	-0.7
4	1.7	4.1	0.4	-1.7
5	1.7	4.4	0.4	-1.6
6	1.6	4.4	0.4	-1
7	1.5	4.3	0.3	-0.2
8	1.3	3.8	0.3	-1.1
9	1.0	3.1	0.3	-1.7
10	0.6	1.8	0.2	-2.3
11	0.5	1.1	0.3	-2.0

失業率

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国	EU27 カ国
1	14.8	11.9	10.8
2	14.7	12.0	10.9
3	14.7	12.1	10.9
4	14.4	12.2	11.0

5	14.3	12.2	11.0
6	14.3	12.1	10.9
7	14.0	12.1	10.9
8	13.7	12.0	10.9
9	13.8	12.2	11.0
10	13.7	12.1	10.9
11	13.5	12.1	10.9

為替レート

月	1ユーロ/円
1	118.1
2	124.5
3	122.9
4	130.9
5	130.9
6	128.5
7	130.4
8	130.3
9	132.3
10	133.3
11	134.8

外国貿易 (単位: 100万ユーロ)

月	輸出	輸入
1	4,857.6	4,482.8
2	5,037.8	4,613.3
3	5,309.5	4,842.6
4	5,642.2	5,076.5
5	5,706.0	5,069.5
6	5,282.2	4,832.7
7	5,010.7	4,839.7
8	4,843.4	4,582.4
9	5,727.5	5,181.9

10	6,076.0	5,592.9
11	6,090.3	5,776.4

鉱工業生産指数 (対前年同月比)

月	鉱工業総合	自動車工業	電子機器工業
1	106.4	115.5	79.1
2	101.0	108.0	96.2
3	100.9	102.3	103.3
4	102.8	105.1	101.9
5	102.8	102.6	92.9
6	102.9	101.2	99.0
7	102.2	95.4	110.2
8	104.4	108.0	98.9
9	107.5	103.5	96.1
10	106.8	107.7	99.0
11	112.6	115.4	105.3

景況感

月	スロバキア	ユーロ圏 17 カ国
1	84.9	89.5
2	86.7	91.1
3	91.0	90.1
4	91.3	88.6
5	88.7	89.5
6	84.4	91.3
7	87.8	92.5
8	88.4	95.3
9	90.0	96.9
10	94.6	97.7
11	93.0	98.4